

かがやく女性

題字
福井県知事 西川一誠
第31号
発行者
(財)ふくい女性財団

就任あいさつ

理事長 松田 千鶴子



このたび、水上前理事長の後を受け理事長の大役を担うことになりました。女性財団の充実、発展のために、精一杯努めてまいりますので、温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

東日本大震災の発生から、早や半年が経ちました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、女性財団は、設立以来、女性の自立と社会参加を促進する事業を通して、男女共同参画社会の形成に取組んでまいりました。

特に、近年、少子化や子育ての問題があり、一方では女性の社会進出が加速しており、育児と仕事の両立支援等が求められるとともに、女性の能力が如何なく発揮され、活躍できる社会を築くことが、経済社会の活性化にも不可欠となっています。

また、男女共同参画の推進に当たっては、地域の取組みも重要です。

女性財団といたしましては、事業や活動のより一層の充実・拡大を図りながら、県のみならず、地域における男女共同参画の推進の核となるあらゆる分野の方々と連携を深め、社会全体に取組みの輪が広がるようにしてまいりたいと考えていますので、引き続き、多くの皆様からご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。就任のあいさつとさせていただきます。



就任あいさつ

「子育てにやさしい社会を願って」

副理事長 海道 洋子

「子どもは社会の希望であり、未来をつくる力である」

子どもが、それぞれの個性と能力を十分に発揮すること、人の気持ちを理解し互いを認め合い、共に生きることができるようになること、このような子どもの健やかな育ちは、子どもの親のみならず、今の社会を構成するすべての大人にとって、願いであり、喜びです。

保育士として、この女性財団を通じて、広く社会に子育ての楽しさや重要性を伝えていけたらと思っています。よろしく申し上げます。

退任あいさつ

前理事長 水上 幸衛

平成23年5月22日をもちまして(財)ふくい女性財団理事長を退任いたしました。平成16年に副理事長に就任し、平成19年から理事長を務めてまいりましたが、在任中には先輩の皆様をはじめ、員の皆様のご協力のもと各事業の充実に図ることが出来ました。心よりお礼申し上げます。

特に昨年から「きらめきフェスティバル地域大会」を実施し、地域にける男女共同参画の一層の推進と地位を超えた繋がりや輪が広まって参りました。

今後とも新体制のますますのご活躍を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

おめでとうございます

平成23年
「男女共同参画社会づくり
功労者知事表彰」

【受賞者】

個人

大木下 美智子氏 (あわら市)
小 寺 恵美子氏 (勝山市)
田 邊 とよ子氏 (美浜町)
田 村 幸 子氏 (若狭町)
前 川 久 子氏 (小浜市)

五十音順



団体

さかい男女共同参画ネットワーク (坂井市)
きのこと星の町おいネットワーク (おおい町)

月間記念行事

開催日：6月21日(土)

会場：福井県生活学習館 (ユニー・アイふくい)

ティバル2011 県大会

心 想いはひとつで明るい未来」

記念講演

「脚本に想いをのせて」

講師 関 えり香氏(脚本家)



NHK朝の連続テレビ小説「てっぱん」の脚本も手がけた脚本家の関 えり香さんは、

高校まで越前市(旧武生市)で過ごされたそうです。大学・テレビの制作会社勤務を経て、脚本家になられたエピソードや東日本大震災で考えられたことなどを語っていただきました。

◆窓ガラスを拭いていて、突然……

母と窓ガラスを拭いていた時、急に「ドラマを書いてみたい」と思いついたんです。母は「どんどん書いてみなさい」と言ってくれました。それで仕事の合間を縫って「シナリオスクール」に通い、一から勉強を始めました。

◆「ドラマを書く人になりたい!」

「ドラマを書く人になりたい」という気持ちがあとも強くなり、仕事を退職しました。あるとき、新人発掘の脚本募集に応募したところ目に留めてもらい、その後半年で深夜ドラマでデビューできました。

◆映像にのせて、どう表現するか

脚本は、「場面」「セリフ」「ト書き」の3つでできています。気持ちや感情を文字ではなく、行動を通してどういう映像として表すかなんです。また、プロ

デューサーのイメージにあわせて、映像にのせてどう表現するかも大事です。役者さんが演じると、想像以上の映像を作ってくれます。

脚本家になってよかったと思うのは、多くの人にも見てもらえ、見てくれた人に応援してもらえることです。

◆作家の人生観・恋愛観がでる

脚本家に男女差はありません。ドラマを見る人は女性が多く、女性の興味を持つものは女性の作家がつかみやすいので、女性が有利かもしれません。胸を打つセリフ・行動は、作家の人生観・恋愛観がでますね。

◆脚本家にできること

大震災が起きた翌週は「てっぱん」が休止になりました。あの災害でテレビを見られなくなった人がたくさんいたんです。再開したとき、被災された方から「再開ありがとう」という声がNHKにたくさん届いたそうです。ドラマで役者さんの姿を見たときに励みになるのでしょうか。人を元気づけられるドラマを書いていくべきだと考えました。そう思うと、脚本家の意義はあるのかな、と思います。



企画展示・体験・健康講座紹介



さをり織り



自然体ヨガ



クラフトバンドで作る小物入れ



写真展

男女共同参画

ふくいいきらめきフェス

テーマ「つたえる言葉 つたわる

ワークショップ

ワークライフバランス
「思考パターン改革」

パネラーによる体験談（仕事と家事の両立等）をもとに心理カウンセラーの方からアドバイスを受けました。

「本音で話そう！あなたもわたしも！」
～もしもあなたの家族が倒れたら～

高齢社会を迎え、施設や家庭で起きている介護の現状、その中でこれからどう家族で担っていくかを学びました。

防災「我が家、我が街は大丈夫？」
～防災意識を高めよう～

東日本大震災にレスキュー隊として参加された福井市南消防署員の体験談をもとに、いざという時の防災や節電100のアイデア（P8に抜粋掲載）を討論しました。

「地域・コミュニティの
再生は男女共同参画で」

行政と男女共同参画ネットワークと住民が協働で、男女共同参画を推進する実践事例について活発な意見交換を行いました。

人形浄瑠璃上演

座」が誕生しました。今回のきらめきフェスティバルでは「傾城阿波鳴門」を演じ、重厚な三味線の響きと義太夫の哀愁のこもった語りを直接聞いていただくことができました。実際に人形を動かしてみる体験もあり、日本文化の世界に浸る素晴らしい時間でした。



「大会を終えて」

西企画委員長

6月11日に開催されました「ふくいいきらめきフェスティバル2011」が大盛況のうちに幕を閉じる事ができました。

雨で心配されました起震車による地震体験やレスキュー隊員の体験談、また節電対策100のアイデアなどは今大会ならではの企画でした。各ワークショップや体験講座にも多くの参加をいただき、ありがとうございました。優秀な企画委員に恵ま

れて委員長
の役目を終
えることが
できました。
ありがとうございました。

ありがとうございました。
ありがとうございました。



企画委員によるPR活動
(TV出演の様子)

男女共同参画啓発事業

ふくいきらめきフェスティバル2011
南越前町大会

テーマ「つたえる言葉 つたわる心 想いはひとつで明るい未来」



はす坊



花蓮

南越前町マスコットキャラクター

開催日：8月21日(日)

会場：南条文化会館

『地域大会を終えて』

ふくいきらめきフェスティバル2011副実行委員長

南越前町男女ネットワーク会長

窪田 春美

8月21日(日)延べ1千名を超える県内・町内の皆様の参加のもと、ふくいきらめきフェスティバル2011地域大会が南越前町で行われました。昨年11月に男女共同参画都市宣言をし、どのくらい町民に男女共同参画が浸透したのかが問われるときでもあったと思います。

オープニングに、南越前町内の3歳から10歳までの子供たちによる「木蓮キッズクラブ」の演奏があり、とても好評でした。

式典後「次世代に向けての男女共同参画」と題してパネルディスカッションが行われました。コーディネーターに福井大学羽田野准教授を迎え、パネラーとして、中学生男女各1名、30歳代男性は理学療法士の方を、また女性には南越消防組合の消防士長の方が、そして40歳代に福井高専准教授の男性の方と多彩にそれぞれの仕事、考え方を発表していただきました。

中学生の生徒たちが小学生のときから男女共同参画を学習していることには頭が下がる思いでした。

また、他のパネラーの方々からも、男女共同参画という言葉を意識しないで自然に生活していることが男女共同参画になっているということが感じられました。

たくさんの方がパネルディスカッション会場に参加をしていただき非常に有意義な時間をすごされたのではないかと思います。

人口1万2千人の南越前町ですが、幼児から大人までみんなが参加しなければ成すことができなかった地域大会ではなかったかと思っています。

子どもたちによる
お茶会実行委員によるPR活動
(TV出演の様子)

★参加者の声★

●オープニングのおよさんの演奏は、地元の迎える心が伝わるように大変良かった。
●パネルディスカッションでは次世代を担う中学生の参加が良かった。
●自主防災意識を持つことは大事と感じた。
●男女共同参画のワークショップでの「朗読劇」というアイデアは良かった、次回は男性が作った作品も聞いてみたい。

●地域での活動状況には格差があり、男女共同参画はまだまだ浸透していないと感じた。

ワークショップ

「男女共同参画は地域から」

～何ができるか？気づきの大切～

- 脚本「地域づくりは家庭から」の朗読劇
- 参加者が8グループになり、朗読劇の感想、パネルディスカッションの感想、参加者の地域状況など発表し、男女共同参画社会づくりを考えるワークショップとなった。



「防災とボランティア」 ～ひとりひとりが支える地域防災力～

- 我が家に必要な「持ち出し袋」、本当に必要な防災グッズを考える
- 家庭でできる備え、地域でできる備えを考える
- 地域で防災について計画的に備える大切さと防災力の要になる人材（考える人）をつくる
- 役割分担の大切さを考える
など、活発な意見交換がなされました。

Aコース

はす織り体験



はす工房
「花里音」

体験ツアー



花はす公園

Bコース

はす染め体験



はす工房
「花里音」



Cコース

ヨガ&温泉で 心も体もリフレッシュ!



ウォーターランド南条

Dコース

体力測定と 体脂肪測定! 整体体操!



ウォーターランド南条

Eコース

そば打ち体験



リトリート
たくら



特集

「防災」



人間はいずれ「災害時要援護者^{*}」になる可能性大！

今、「災害時要援護者」が抱える課題は、今の若い世代も含めたみんなの課題！

^{*}災害時要援護者とは（昔は「災害弱者」と表現）

身体的にあるいはコミュニケーションにハンディキャップを持っていることで、災害が起きた際（起りそうな際）に不利益を被りやすい高齢者、障害者、乳幼児、外国人、旅行者等をいう。

◆平常時に地域の中ですべきこと◆

- ふだんから高齢者や障害者等も大切にされる地域社会づくり！
- 自分も家庭も周囲も「生き残る」備え！
- 災害に対する予備知識を周囲にも広める！
- 情報入手ルートの確保！
（ラジオ、携帯電話のメール、災害伝言ダイヤル）
- 避難所運営のルール確立！
- 防災訓練の内容の工夫！

◆地域の防災力を高める 4つのポイント◆

- ①日頃から「災害時要援護者」と交流する。
- ②災害時要援護者自身も予備知識を持つ。
- ③災害時要援護者の立場になって、防災環境を点検する。
- ④地域での支援・協力体制を具体化する。

〈資料提供〉

社会福祉法人 福井市社会福祉協議会 小柏博英氏



安心のための防災第一歩を

福井工業高等専門学校 環境都市工学科 助教 江本 晃 美氏



3月11日の東北・関東大震災以降、各地各方面で様々な災害に対する取り組みが活発化しています。と同時に、漠然とした不安も拡がり続けているのではないのでしょうか？

例えば、緊急時の物資についての不安、家族の避難についての不安、インフラ設備復旧に関する不安など挙げれば際限がないでしょう。また、何かしたい、対策を考えておきたいがどうしたらよいのか、という不安もあるかもしれません。不安というのは、何がしかの未知なことに對して想像することで生まれてきます。

◆身近な防災は「想像」から

そこで、防災に取り組む第一歩として、この「想像」をしていただければと思います。「いつ、どこで、どのような、どれくらいの災害がおきるのか」を想像してみてください。例えば「今、裏山で地滑りが1mくらい起きたら…」だとします。そのように具体的に考えると、これから、まださらに崩れそうなのか？避難を開始した方がよいのか？近日にさらに多量の雨が降りそうか？今から避難するのなら何を持って出るのか？といったような具体的な行動を思い浮かべ、備えることができるようになり（少しかもしれませんが）不安から落ち着くことができます。現在までに甚大な被害をもたらした災害をもとに、それらが実際に現在起きることを想定して準備することで、防災・減災へとつながります。

◆「地域防災」とは

また、1人1人が取り組んでいくと同時に、地域で想像し備えを考えることがより重要になっています。災害が大きいほど、公的な支援にも時間がかかり画一的なものに限られてきます。このため、どのような災害でも柔軟に活動することのできる、日頃顔を見られる範囲内でのネットワーク、つまり「地域防災」が重要となってきます。地域では、「誰が、どのようなことができるのか」「誰に、どのような支援が必要か」をまず明らかにすることで、自分たちの地区の強み&弱みを整理できます。そうすることで、何を備えるか、誰が何を行うかを考えることにつながります。

◆まとめ

このように、様々な災害を「想像」し対策を考えることが防災の第一歩であり、安心へつながる第一歩でもあると思います。この機会に想像から防災を始めてみませんか。

福井県漁協女性部連合協議会

また、海難事故を未然に防ぐため、敦賀海上保安部長からライフジャケットの着用推進運動に取り組むライフガードレディーズ（LGL）に委嘱され、漁師である家族や釣り客に、ライフジャケットの着用を積極的に呼びかけています。



図るため、手作りの料理集「越前・若狭旬の肴さかな魚」浜の母ちゃんの味」を活用し、子供から大人までを対象に「魚のさばき方と魚料理教室」を開催しているほか、「学校給食への食材提供」「加工品の開発」に取り組む等、食育活動の一役を担っています。



の提供と消費拡大を以て安心・安全な魚」の提供と消費拡大を

会長 子末 とし子

当協議会は、漁村地域の発展を目的に昭和32年に発足しました。生産者でもある私たちは、地元で水揚げされる「新鮮で安心・安全な魚」

いま輝いていきます (加盟団体活動紹介)

越前市男女共同参画ネットワーク

同参画社会づくりのための情報交換を行い、知識の向上をすすめております。



当ネットワークは市内37の団体で構成され、啓発推進事業・地域団体間連携高揚事業・研修事業の3事業を重点に年間計画をたて、男女が自らの個性を発揮し、生き生きと充実した生活を送ることができま

越前市男女共同参画プランが策定され、男女共同参画社会の実現に向けて様々な活動を実施しております。



越前市では、平成17年10月に武生市・今立町の合併により制定した男女共同参画推進条例のもとに、男女共同参画社会の実現を目指し、男女共同参画都市宣言をいたしました。平成19年3月には

代表 長谷川 淳一

鯖江地域ファミリーサービスクラブ

日々、支援会員一同頑張っております。特に子育て支援として、放課後学童保育、長期休暇学童保育に力を注ぎ、20数名のスタッフはフル活動しています。みずみ子育てサポート事業の利用率も年々増加傾向にあります。他にも老老介護や一人暮らしの老人も多く、支援を必要としている家庭は増加しているようです。ニーズも多様化してきていますが、会員みんなが支えあい、思いやりのある活動を進めていきたいと思



でも手助けになればとの思いから、

会長 吉田 喜美子

当クラブは平成4年に発足し、来年には結成20年を迎えようとしています。働く女性が増える中、仕事と家庭のバランスを保つために、少しでも手助けになればとの思いから、

(財)ふくい女性財団 役員等紹介

理事・監事・相談役

理事長	松田千鶴子	JA福井県女性組織協議会
副理事長	野田美智子	さかい男女共同参画ネットワーク
	海道 洋子	福井県保育士会
専務理事	鷺田 悦郎	(財)ふくい女性財団事務局長
理 事	林 雅則	福井県総務部長
	今富 廣子	福井県生活学習館長
	下野谷定枝	(財)ガールスカウト日本連盟福井県支部
	前川百合子	国際ゾンタ福井ゾンタクラブ
	齊藤 博子	福井県食生活改善推進員連絡協議会
	山崎 栄一	福井男女共同参画ネットワーク
	芝 美代子	小浜男女共同参画ネットワーク
	朝日 力子	勝山市男女共同ネットワーク
	高屋 勝一	さばえ男女共同参画ネットワーク
	長谷川淳一	越前市男女共同参画ネットワーク
	岡本 幸江	若狭女性ネットワーク
	三輪 隆三	福泉信用組合専務理事
監 事	重久 博子	元(財)ふくい女性財団副理事長
相談役	水上 幸衛	前(財)ふくい女性財団理事長

評議員（五十音順）

	天谷 祥子	学校法人 天谷学園理事長
	荒井 紀子	福井大学教育地域科学部教授
	加藤 澄子	学識経験者
	北島 三男	福井新聞社 論説委員長
	大正 光子	学校法人 大正学園理事長
	堂田 英治	(財)福井県文化振興事業団専務理事
	宮越 洋二	医学博士
	室谷 留美	福井労働局 雇用均等室長

常任企画運営委員

委員長	森久みどり	みはま女性ネットワーク
副委員長	樫尾智恵子	福井県民生活協同組合
委 員 (五十音順)	窪田春美 内藤尚子 西 芳子 長谷川幸子 福井恒子	
	堀江洋子 松田典子 巳寅令子 森下好子 吉田喜美子	

編集後記

東日本大震災の発生を受けて、きらめきフェスティバル2011県大会と南越前町大会ともに、「防災」に関するワークショップや体験コーナーが企画されたことは大変有意義だったと思いました。

今回特集としてテーマに「防災」を取り上げましたので、読者の皆様の防災の意識向上に役立てていただけると大変ありがたいです。

発行者

(財)ふくい女性財団

〒918-8135 福井市下六条町14-1
福井県生活学習館(ユー・アイ ふくい)2階
TEL:0776-41-4254 FAX:0776-41-4260
E-mail: fujho-zai@cnr.ne.jp URL: http://www.f-jhosei.or.jp

きらめき2011県大会

ワークショップ「防災」の参加者から出た「100の節電アイデア」から抜粋

文明機器の時代だからこそ、今ここで感謝の気持ちを持ちながら、「ほのぼのとした昔ながらの家庭に戻るような」感覚で工夫して生活することの大切さに気付きましょう

アイデア内容

早寝早起きをする
掃除機よりほうきを使って掃除する
エレベーターを使わず階段で
自動ドアより手動ドアを選ぶ
冬は厚着をする
湯たんぽを使う
なるべく一つの部屋に集まる
身体が温まる食事をする
薄着をする
自然の風を入れる
うちわを使う
すだれを使う
風鈴で耳から涼しく
夕方は打ち水をする
脱いだら洗濯から汚れたら洗濯へ
電球の明るすぎに気づく
お湯は必要な時に必要な分だけ沸かす
食洗機を使わず手洗いする
家族で話し合っって入浴時間を決める

※「100の節電アイデア」は財団HPに掲載中

平成23年度 ふくい女性財団年間事業

①仕事と育児の両立支援

- ファミリーサービスクラブ事業
- チャイルドルーム運営事業
- 病児・緊急預かり対応基盤整備事業

②研修、講座、セミナーの開催

- 女（ひと）と男（ひと）が輝く未来塾
- 男女共同参画セミナー
- 人材育成研修（県内6地区で順次開催）
- 女性のつとめ事業（ふくいきらめきフェスティバル）
- 健康講座
- 文化講座（パッチワーク・押し花）

③女性団体活動支援

- 女性団体指導、育成事業
- 女性団体交流事業

④配偶者暴力の防止と被害者支援

- 配偶者暴力被害者自立支援事業

⑤情報収集・提供

- 財団機関紙「かがやく女性」発行
- ホームページや新聞等の広報活動
- 男女共同参画ポータルサイト運用

文化講座紹介



押し花作品展



教室の様子



パッチワーク作品展